

【 重 要 】

シラバス
高等教育内容論 - 学士課程教育論

名古屋大学教育発達科学研究科授業科目（高度職業人養成コース）

2 単位

担当教員：中井俊樹

名古屋大学高等教育研究センター

文系総合館 5 階 高等教育研究センター会議室（509）

2006 年度前期

水曜 6 時限目（18:15～19:45）

“Students learn more when they are involved.”

Astin, A. (1984)

授業の概要

これまで教育学者たちは、どのような条件において大学生の学習や発達が促進されるのかについて実証的研究を積み重ね、教育成果に影響を与えるであろう教員の働きかけや組織的支援を明らかにしてきました。この授業では、これらの研究成果や実践事例をもとに、学生が大学でより学び発達するための条件を理解し、現場の教育的課題を解決する力を身につけることを目指します（大学院教育発達科学研究科学修案内より）。

授業の目標

この授業が終了したときに、受講者のみなさんが以下のような知識や能力を身につけることを目標にします。

- ・ 現代の日本の大学生の特徴を理解し、自分の言葉でまとめられるようになる
 - ・ 学生の学習・発達とその要因を説明するさまざまな理論の特徴を理解し、それぞれの違いを説明できるようになる
 - ・ 大学生の学習・発達理論を用いて学生の学習・発達を支援するプログラム・サービスを開発できるようになる
 - ・ 大学教育に関する多様な考え方や経験で培った事例を尊重し、共に教え学びあう雰囲気
- に貢献する

この授業で大事にしている問い

- ・ 現代の日本の大学生はどのような特徴をもっているのか
- ・ 現代の日本の大学生はどのような課題をもっているのか
- ・ 大学生は大学の4年間でどのような学習・発達をするのか
- ・ 大学生は大学の4年間でどのような学習・発達をすべきなのか
- ・ 大学生の学習や発達をどのように評価することができるのか
- ・ 大学生の学習・発達を促進する要素、および阻害する要素はどのようなものか
- ・ 大学が大学生の学習・発達を促進するためにはどのようなことができるのか
- ・ 大学教育において何が重要な論点なのか、そしてこれまで何が明らかにされ、また何が明らかにされていないのか
- ・ これまで研究者などが作り出してきた大学教育に関する理論は、どのように実践に活用できるのか

教科書

本授業では特定の教科書は使用しません。

主な参考文献

- 有本章・羽田貴史・山野井敦徳（2005）『高等教育概論』ミネルヴァ書房。
- 池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹（2001）『成長するティップス先生 - 授業デザインのための秘訣集』玉川大学出版部。
- 宇佐美寛（1999）『大学の授業』東信堂。
- 絹川正吉・館昭編（2004）『学士課程教育の改革』東信堂。
- 京都大学高等教育研究開発推進センター編『大学教育学』培風館。
- 中井俊樹（2006）「クラス規模は授業にどのような影響を与えるのか」『名古屋高等教育研究』第6号，pp.5-19。
- 名古屋大学（2005）『学生生活状況調査報告書（第21回）』。
- 名古屋大学高等教育研究センター（2005）『ティップス先生からの7つの提案』。
- 名古屋大学高等教育研究センター（2006）『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』。
- 溝上慎一編（2002）『大学生論 - 戦後大学生論の系譜をふまえて』ナカニシヤ出版。
- 溝上慎一（2004）『現代大学生論 - ユニバーシティ・ブルーの風に揺れる』日本放送出版協会。
- 溝上慎一編（2004）『学生の学びを支援する大学教育』東信堂。
- 速水敏彦『他人を見下す若者たち』講談社。
- 山内乾史（2004）『現代大学教育論』東信堂。
- P. サックス（後藤将之訳）（2000）『恐るべきお子さま大学生たち - 崩壊するアメリカの大学』草思社。

F . B . ニュートン・エンダー編 (岡田臣・中川米造訳)(1986)『大学の学生指導 - 成長モデルの理論と実践』玉川大学出版部.

Chickering, A. W., Reisser, L. (1993) *Education and Identity, 2nd Ed.*, Jossey-Bass.

Pascarella, E. T., Terenzini, P. T. (1991) *How College Affects Students*, San Francisco: Jossey-Bass.

学術誌・紀要・雑誌等

名古屋大学高等教育研究センター『名古屋高等教育研究』

日本高等教育学会『高等教育研究』玉川大学出版部

大学教育学会『大学教育学会誌』

民主教育協会『IDE・現代の高等教育』

リクルート『カレッジマネジメント』

進研アド『ビトウィーン』

The Chronicle of Higher Education, *The Chronicle of Higher Education*.

TSL Education Ltd., *The Times Higher Education Supplement*.

担当教員

この授業は名古屋大学高等教育研究センター助教授中井俊樹が担当します。中井研究室は文系総合館 515 号室です。私の主な専門領域は高等教育論です。大学では学生は何を学ぶべきか、そしてどのような条件で学生はより学ぶのかということに関心があります。学生の学習に影響を与えるものはたくさんありますが、特に教授法に注目して研究を進めています。私の詳しい研究テーマや研究成果に興味があれば以下のホームページを参考にしてください。

特定のオフィスアワーは設けませんが、事前にアポイントをとってもらえれば、授業の内容に関する質問などを答える時間を調整します。私宛に課題などの郵便物を送る場合、電話連絡する場合、メール連絡する場合は以下のものを利用してください。

住所 464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学高等教育研究センター

電話 052-789-5385

メール nakai@cshe.nagoya-u.ac.jp

URL <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/staff/nakai.html>

メッセージ：大学院生の中には「知の狩人」に変身する学生も少なくありません。大学院での知的探求のプロセスを十分に楽しんでください。この授業のシラバスでは、各回の概要や課題の内容をあらかじめ示しています。自分のペースでしっかりと学習を進めてください。

成績評価

授業への参加と3つの課題をもとに、授業の目標にどれほど到達しているのかという基準で成績評価を行ないます。最終の成績評価におけるそれぞれの配分は以下の通りです。

授業への参加	30 %
課題1：現代の大学生の特徴	
発表	10 %
レポート	10 %
課題2：文献レビュー	
発表	10 %
レポート	10 %
課題4：プログラム・サービス開発	
発表	15 %
レポート	15 %
合計	100 %

授業への参加

できるだけすべての授業に出席してください。また、単に出席するだけでなく授業時間内の学習活動にも積極的に関わってください。この授業では多様な経験をもった学生が集まっています。受講者が職場などで培ってきた経験や考え方は、自らの貴重な教育資源になるとともに、クラスの他の人にとっても貴重な教育資源です。クラスのディスカッションに積極的にそして建設的に参加することを期待されています。また、クラス内で共有したほうがよいと思われるものは、授業の初めの時間に「共有情報タイム」を作りますので、進んで情報提供してください。

課題1：現代の大学生の特徴

現代の大学生の実態についてさまざまな大学や機関が調査し報告書や論文としてまとめられています。この課題では、現代の大学生の実態を把握するにあたって有効であると思われる一つの調査結果を選択し、授業の中でそのハイライトを紹介してもらいます。発表の内容には、(1) 選択した調査の出所 (2) その調査を選択した理由、(3) 調査の目的と方法、(4) 調査結果のハイライト、(5) この結果から学べることを含めてください。レポートは、A4用紙2ページ程度にまとめてください。発表は10分程度で、レポートのハイライトを中心に準備してください。発表で配布物がある場合は、事前に人数分コピーを準備してください。

課題2：文献レビュー

この課題では、学士課程教育のあるテーマに関する本や論文をレビューします。この文献レビューでは、そのテーマにおいて何が重要な論点なのか、そしてそのテーマに関して何が明らかにされ、また明らかにされていないのかを知ることが目的とします。ただ本格的な文献レビューをするには時間を要しますので、ここでは対象とする本や論文を5冊（本）程度にして、簡易な文献レビューを体験してもらいます。

文献レビューでは、フォーマットは自由ですが、（1）文献レビューの目的、（2）このテーマでの重要な論点、（3）これまで明らかにされたこと、（4）まだ明らかにされていないこと、（5）レビューをした感想の5つの要素を含めてください。レポートは、A4用紙2ページ程度にまとめてください。発表は10分程度で、レポートのハイライトを中心に準備してください。発表で配布物がある場合は、事前に人数分コピーを準備してください。

課題3：プログラム・サービス開発

この授業で学んだことを用いて、大学生の発達を促進するためのプログラムやサービスの企画案を作成します。企画案を作成するにあたっては、（1）どのような大学を現場として設定しているのか、（2）どのようなプログラム・サービスを考えているのか、（3）プログラム・サービスはどのような学生を対象としているのか、（4）なぜそのようなプログラム・サービスが必要なのか、（5）授業で学んだ理論や知識とどのように関連するのか、をまず初めに考えてください。その後、（6）具体的なプログラム・サービスの活動と（7）プログラム・サービスの評価方法を考えてください。レポートは、A4用紙3ページ程度にまとめてください。また発表は15分程度で、レポートのハイライトを中心に報告してください。発表で配布物がある場合は、事前に人数分コピーを準備してください。

レポートの書式と提出方法

- ・ 参考文献はすべてリストする
- ・ A4用紙を使用する
- ・ すべてのページにページ番号をつける
- ・ ホッチキスでとめて提出する
- ・ 担当教員にメールでも送る

クラス内の方針

障害をもった学生の学習支援：障害をもった学生は、すみやかに担当教員に連絡してください。学習を支援できるようなクラス環境や授業方法について検討します。

受講者の学習権：他の受講者の学習環境を阻害するような行動をとる者に対しては履修を取り消すように求めることがあります。

不正行為：大学での不正行為とは、カンニング行為によって自分の能力を不正確に伝えたり、他人の論文などを剽窃したりすることで他人の権利を侵害することなどがあたります。万が一、不正行為があった場合は、教育発達科学研究科の規則にそって対応します。

ハラスメント：名古屋大学ではハラスメント防止基本宣言を定め、大学のすべての構成員が、お互いに自由や権利を尊重しあうことが不可欠であるとしています。万が一、ハラスメントが発覚した場合は、厳格に対応します。また名古屋大学にはセクシャル・ハラスメント相談所があり専門のカウンセラーがいます。

名古屋大学セクシャル・ハラスメント相談所

<http://www.sh-help.provost.nagoya-u.ac.jp/>

電話 052-789-5806 (9時30分～16時)

授業のスケジュール

第1回(4/12) オリエンテーション

- 自己紹介
- この授業に関する説明
- 学士課程教育に関する問いをつくろう
- 最近の学生の不思議

第2回(4/19) 大学生像の変遷

- アメリカの大学生像の変遷
- 日本の大学生像の変遷
- 現代の大学生の特徴

第3回(4/26) データでみる大学生の実態

- 大学生の実態を把握するデータ
- 文部科学省各種統計情報
- The Chronicle of Higher Educationの統計情報

第4回(5/10) 現代の大学生の特徴

課題1 発表およびレポート締切

第5回(5/17) 大学生の発達理論1

- 私の学士課程教育
- アメリカの大学生の発達理論の類型
- チッカリングの7つのベクトル
- 授業に関する中間フィードバック

第6回(5/24) 大学生の発達理論2

- ペリーの発達理論
- テイントの理論
- その他のアメリカの大学生の発達理論

第7回(5/31) 教育成果に影響を与える要因

- 教育成果とその説明要因に関する実証研究

第8回(6/7) 発達理論の適用

- 理論を実践にどのように適用するか

第9回(6/14) 大学の教育目標とカリキュラム

- 大学の教育目標の特徴
- 大学のカリキュラムの特徴
- 教育効果への影響

第10回(6/21) 優れた授業実践と学習環境

- 教授法と教育効果との関係
- 優れた授業実践の要素
- ファカルティ・ディベロップメント
- 学習環境

第11回(6/28) 文献レビュー

課題2 発表およびレポート締切

第12回(7/5) プログラム・サービス開発1

- 学生の発達を支援するプログラム・サービスの構想

第13回(7/12) プログラム・サービス開発2

- プログラム・サービス企画案ドラフト作成

第14回(7/19) プログラム・サービス開発3

- プログラム・サービス企画案
 - これまでの授業のまとめ
 - 授業に関するフィードバック
- 課題3 発表およびレポート締切

授業の内容に関連するイベント

前期の期間中に、授業の内容に関連するイベントがあります。興味があるものにぜひ参加してみてください。詳しい内容はホームページで確認してください。

- 6/3, 4 日本高等教育学会第9回大会(学術総合センター)
6/10, 11 大学教育学会第28回大会(東海大学)
6/24, 25 日本比較教育学会第42回大会(広島大学)

関連サイト

名古屋大学高等教育研究センター

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/>

広島大学高等教育研究開発センター

<http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/>

文部科学省

<http://www.mext.go.jp/>

大学評価・学位授与機構

<http://www.niad.ac.jp/>

大学基準協会

<http://www.juaa.or.jp/>

日本高等教育学会

<http://www.edu.kyushu-u.ac.jp/html/kyokan/yoshimoto/2005HE/>

大学教育学会

<http://www.obirin.ac.jp/unv/un-gakkai/>

日本 WebCT ユーザ会

<http://www.webct.jp/>

全国国公立大学の事件情報

<http://university.main.jp/blog/>

国立大学独立行政法人化の諸問題

<http://www.ac-net.org/dgh/blog/>

朝日新聞 教育・入試

<http://www.asahi.com/edu/>

読売新聞 教育ワンダーランド

<http://www.yomiuri.co.jp/education/>

京都新聞 教育・大学・環境

http://www.kyoto-np.co.jp/genre_list.php?categ=F

日本私大教連

<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/%7Ejfpu-shi/shidai/>

メーリングリスト

Academia e-Network Letter (日本語)

<http://ac-net.org/letter/index.php>

サイエンス・コミュニケーション

<http://scicom.blogtribe.org/>

<http://scicom.jp/>

名古屋大学高等教育研究センターセミナーメーリングリスト

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seminar/>

京都大学高等教育研究開発推進センターメールリングリスト

<http://kyoto-u.s-coop.net/asagao/>

広島大学高等教育研究開発センターメールリングリスト

http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/news_mail.php

http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/m_mag.php